

しょうだいつきどうわん  
承台付銅鏡の展示 ↓



銅を鑄造した後にロクロびきで整形し、沈線で装飾を施しています。鏡全体の形も、宝珠の形をしたつまみも仏具に通じていて、6世紀に日本に伝来した仏教文化の影響を物語っています。また、内部は当時の輝きを保っていて、金が残っているのはこの承台付銅鏡だけです。承台付銅鏡は国の重要文化財に指定されています。

復元品と本物を交互に展示しているので、本物はとてもレアです。私たちが行った時は復元品でした。

## 副葬品について

金銅製透彫り杏葉  
こんどうせいすかしぼり  
ぎょうよう



↑ 馬具を装着した  
馬形埴輪

馬の所有は権威の象徴でした。副葬品の中では、馬具が最も多く、使用される材質も銀・銅・金銅・鉄・木・鹿角・革など多様です。代表的なものとして、鉄地金銅張花形杏葉、花形鏡板と轡のセット、金銅製心葉形透彫杏葉などがあります。また、金銅製心葉形透彫杏葉は国の重要文化財に指定されています。

※画像はイメージです。 2